

米國の婦人と子供

— フレーベル會二月常會講演筆記 —

東京高等師範學校教授

佐々木吉三郎

次ぎには亞米利加の婦人に就て少しくお話してみませう。

米國の婦人は日本の婦人からみれば尊敬されてゐます、私達が勸工場などへ見物に行て、エレベーターに乗つてゐる時、あちらの婦人が入つて來れば、ちよつと傍へ寄り帽を脱つてお辭儀をしなければなりません、すると別に氣の毒と思ふ様子もなく頭を昂げて傲然として入つて來ます、とにかく大變な權幕であります。これは身分の高下には關しないのであります。例へば市長と下女とであつても男と女といふちがひでもつて、市長は下女にお辭儀をしなければならぬのであります。

亞米利加も歐羅巴も同じ程度に於て、女尊男卑

であります。何うして斯うなつてゐるか、私はいろいろこの原因を考へてみました、何うも自由結婚から來てゐるらしいと思ひます。

自由結婚だと何うしても女尊男卑になるわけです。男は先づ女の歡心を求めねばなりません。娘は先づ自分の夫とすべき人を十人ばかり候補者を選びます。何うもあの人は氣に食はないといふことになれば素振りにも知れますので候補者はポロリ／＼と缺けて行きます、而して最後に止つた一人がその娘の夫となることが出来るわけで、さうなると娘は母とも相談して、いよく黃道吉日を選んで華燭の典を擧げるといふ運びになります。しかしそれまでにするのが却々大變なものです。

日曜日になると、薔薇の花持參で、御機嫌伺ひに

出たり、風邪をひいたさうだからと言つてすみれの花を持つて行く、走りの褥が出たから一つ御風味をと、なか／＼並大抵のわけのものぢやあるまいと思ひます。それで結婚後は何うかと言ひますに、男の方ではもう手に入れて了つたからいゝわで翌日から直ぐに豹變して虐待するといふわけはありません。玉椿の八千代まで添遂げるためには大いに神妙懇慫にしてゐなければならぬ勘定であります。尤も西洋人だつて腹が立つて北の方に劍呑みを食はせることもありませうから、家庭に在つては犬も食はない喧嘩をすることもありません、しかし、戸外へ出ては亭主は宛然細君のボーイたらざるを得ないやうな社會の風習になつて居ります。

亞米利加では婦人を尊敬します、これは値打のないものを尊敬することになるでせうか。否々、亞米利加の婦人はこの尊敬に價するだけの値打を

持つてゐるのであります。

亞米利加でも、中部のイリノイス邊は家庭が餘程堅實で近世的に出來てゐるさうで、西の方の人が羨しがつてゐますが、東部の方へ行きますと却々保守的で、一家の大黒柱たるべき亭主が無學であることが多いのであります、特に下等社會になりますと細君の方が亭主よりも、ずつとエライのであります。細君は大抵女學校位を卒業して居ります、而して料理法位なども一通りは心得て居ります。しかし夫は工場へ通つてブーン／＼唸る機械の足し前をしてゐる人間なのですから何も知りません。それ故お神さんは一家の家政は全然自分に委托されてゐます。お神さんは一定の案を立てて置いて月曜日には子供の着物を洗濯するとか、火曜日には何の室を根本的に掃除するとか、水曜日には市場へ買物に行くとかいふやうに豫じめめて居るのであります。而して一日の中にも暇な時がありませうから、さういふ時には新聞や雜誌

を讀んで世の進みにおくれないやうにして居りま
す、而して夫の職業に關係のあるやうな記事でも
見附けるとチャーンと切抜いて置きます、而して
夕方になつて夫が歸る頃には、すつかり用事を片
附けて了つて、上つ張りを脱ぎ、子供達の手足を洗
つてやり、自分も薄化粧をして、夫の歸りを待ち
ます。斯ういふよく調つた家へ歸つて來ますので
夫も心持よく、愉快に晚餐を取ることが出來ます
而してこの樂しき晚餐の後に夫は勤め先であつた
ことを話す、細君は新聞で見たことを夫に取次ぐ
その他には子供がした可愛らしいことなどを話す
と言つた調子で實に工合がよいのであります。亞
米利加の女とさへいへば皆さんは靴で男を蹴飛ば
して行くやうな女を想像なさるかもしれませんが
却々さうではないのであります。今お話したやう
に亞米利加の細君は却々働きのものでもあり、エラ
クもあります、亞米利加の男は互ひに議論して旗
色がわるくなると、「だつて、妻がさう言つたせ」

と言ふのであります。細君が言つたといふことは
字引に書いてあつたといふのと同じ位の權威を持
つてゐるのであります。日本の細君はこれとは反
對で少しも權威がありません、日本の細君は殆ん
ど夫の奴隸です、細君が少しでも説を立てるやう
なことがあれば、「お前なんぞ知つたことかい、黙
つてゐろ」とやられて了ひます。大變な違ひです。

亞米利加では訴訟事件でも大抵は女が勝訴とな
ります、何うしても男は割がわるく出來て居りま
す、石井大使が渡米して間もなくの頃のことであり
ましたが、日本人が白人を迫害するフィルムがあ
ちらの活動寫眞界で大變持て囃されておました、
心ある人々は斯るフィルムは國際感情を害ふもの
として私かに擧盛してゐたのであります、さて
おもて立つて誰もこれが興行を禁止せしめやうと
努めるものがありません。石井大使が交渉しても
無駄でありました。知事ガバナーが口を利いても役に立ち
ませんでした。然るにこのことを聞いたサンフラ

ンシスコのバーネット少佐夫人は靴を一つ提げてワシントンに行き、國務卿に面會して、該フィルム禁止の件を申込みました。それで早速オール、ライトと言つたものです、つまり一婦人の手によつて簡單に事が運んだわけでありませう。そりやアエライものです。

私達がローザンゼルスへ行つた時丁度赤十字會でフライデー、ウーマンス、アッシエーションと云ふのが總會を開いて居りました。この會などは一人の老婦人が司會者となつて、ズン／＼會務を果たして行きます、私にも何か話をしてくれといふことでありましたので、「ブロークンでよければ」といふ條件の下に、少しばかりお喋舌りを致しました。

斯ういふ風に、婦人が先立ちになつて働いてくれますので、軍事公債などといふものを起しても飛ぶやうにして捌けて了ふのであります。食糧貯藏などといふことにも、婦人の手を勞することが

實に大きいのであります。

又、あちらでは、戦争の影響を受けて、物資不足を告げて居りますので、一週の内、何日と何日といふ風に日を決めて「^{ライレスデー}麥の無い日」とか「^{ミートレスデー}肉の無い日」とかいふものを作り、その日には小麥を用ゐなかつたり、肉を用ゐなかつたりするのであります。斯ういふことにも婦人の贊同が與つて力あるのであります。亞米利加の婦人は時局問題などに就ても相當の理解を持つて居りますので、斯ういふ場合には、率先して、麥を用ゐないやうにし、又肉を用ゐないやうにします。而して尙その上に小麥の代りに何を用ゐれば、肉の代りに何を用ゐれば、滋養分は同じであるといふ風な研究をして、自分でいゝと思へば小冊子に印刷して之を社會へあまねく告げ知らせやうとします。又た「^{ドライシティー}酒の無い市」「^{ドライステート}酒の無い州」といふやうなものがありまして、その市全體、若しくはその州全體は酒類を一滴も用ゐないといふやうな約束をして

居るところもあります。これなども婦人が力を合せて行はなければ一寸行ひ難いことであります。私共があちらに居りました頃、各地でこの禁酒といふことが行はれ始めました、無論婦人の運動の力に俟つものが多かつたことは言ふまでもありません。

以上の如く、亞米利加の婦人は實に實行力が豊富であります。従つて婦人には權威があります。母親の權威などといふものは、それは實に、スバラシイものであります。子供達は母親に對しては至極従順であります。中學生位になつても、母と共に外出し、子供の方から母の步調に合して、さつさと歩いて行く様は、傍の見る目も心持がいゝ位であります。

小學校の教師なども、あちらでは大抵女の先生であります。それですから、師範學校の生徒なども大部分は女でありまして、男は極く尠いのであります。私共の參觀しました或る師範學校などは

七百人ばかりの生徒の中で十四人しか男の生徒はありません、あとは皆女の生徒であつたであります。

亞米利加の子供と婦人にと就ては以上に止めておきまして、次ぎには少しく、あちらの幼稚園に就て話してみやうと思ひます。

一體、亞米利加には文部省といふものはありません。文部省の仕事は内務省の中の教育局(ザ、ビユーロー、オブ、エデュケーション)といふところで扱つて居ります。この教育局の中にホーム・エデュケーション(家庭教育)といふのが設けられて居ります、これは確か千九百年代になつて設けられたものと記憶しますが、ハツキリと覚えて居りません。扱て、亞米利加では、このホーム・エデュケーションが却々效果的に活動するのであります。こゝには全國の家庭からの報告が集められてあります。ホーム・エデュケーションといふやうなもの、必要は、亞米利加に於て、特に然りであ

ることは今までのお話から皆さんは直ぐ御想像下さるだらうと思ひます。

ホーム・エデュケーションは各部に分れて居りますが、その間に國民讀書會(ナショナル・リーディング・サークル)といふのがありまして、これは七つに小區分されます、前後を省きまして、これの第三番目はビヤールンツス・リーディング・コース(父兄讀書課程)といふのでありまして、これには「育兒法」「子供の發育」等の名の冠せられた本が何冊も集められてあります。第四は男兒のための讀み本、第五は女兒のための讀み本をそれ〴〵選擇列擧して居ります。是等の選擇の任にあたる人々は皆大學の文學の教授連なのであります。この部からは私共のあちらに居りました時分、「赤ん坊の世話」といふ小冊子を發行して、二萬の家庭に頒布しました。

亞米利加には教師と兩親父兄との連絡をとるための會合なども屢々行はれ、而して又それが有功

に利用されて居るやうであります。

それから一寸面白いのは、亞米利加に於ては、この頃、訪問教師運動(ザ・ヴィジテイング・チャー・アッシーション)といふものが起つて居ることです。それは學校と家庭との連絡をはかるために、教師が生徒の家庭を訪問しやうといふのであります。尤もこれは今までとても行はれてゐたのであります。今までのやうではあまり効果が擧らないから何うか別に方法を講じやうとしたのであります。而して新たに家庭訪問専門の教師といふものに考へ及んだのであります。すなはち、大都市に於ては受持の先生が學校の用務の暇に行くのでは些か食ひ足りないであります。それで家庭訪問が、りの先生といふものを特別に設けて、他のことはさせずに、専ら家庭訪問の衝にあたらしめるのであります。この家庭訪問教師は婦人であります。家庭訪問教師は出來のわるい子、性質のわるい子、特に注意を要する子の家庭を

訪問するのであります。

紐育市では千九百十四年から千九百十五年に至る一ケ年に於て、六人の家庭訪問教師ヴァイスチエグ、ジョーイチャーをして、七千七百二十一の家庭を各一度以上づゝ訪問せしめました。カリフォルニア州に於ては、生徒五百人に對して一人の家庭訪問教師を置くことを得と規定して居ります。これなどは却々おもしろい企であると思ひます。斯様に、亞米利加に於ては一體に家庭教育といふことに注意を怠らないやうであります。

次ぎには幼稚園に直接關係のある方面のことを少しく申述べてみませう。

御承知の如く、亞米利加の幼稚園は四つの方面から發達して來ました。

第一は、亞米利加に於ける保育事業の先驅者たるボストン市のミス・エリザベス・ビーポデイを中心としてひろまつて來たのであります。ビーポデイは千八百六十七年に獨逸に渡り、親しく幼稚園

といふものを研究して翌千八百六十八年に米國へかへり金持の子を集めて保育を試みたのであります。

第二は博愛的運動から起つて來たものでありまして、慈善のために貧民の幼兒を預つて養育してやるといふのがこれであります。これはマサチューセットのフローンレンスが始まりで、西海岸、殊に桑港あたりで發達して居ります。金持が貧乏人のために經營するものを言ふのであります。

第三はセント・ルイが發源地でありまして、ドクター・ハリスがセント・ルイの學務課長時代にグ、スクール小學校を下に延ばす必要があると言つて、小學校に幼稚園を附屬せしめました。而して年額五弗で一人の幼兒の世話をしました。これが大變世の迎ふるところとなつて、千九百年頃には、この意味で出來た幼稚園が千五百位になりました。

第四は母親の教育から思ひ附いて起つたものであります、シカゴがその中心地であります。始

めは母親の教育のための會合でありまして、一年に七八百人の母親を教育してゐたのであります。ここから幼稚園の必要に心附いて行つたのであります。

以上の如き四つの方面から亞米利加の幼稚園は發達して來ました。今、千九百十四年から同十五年に至る教育局發行の年鑑を見ますと、その前年の幼稚園は、この一年間に急増して、九千四百八十六となつて居ります。幼兒の數も四十六萬五千六百六十八から四十八萬六千八百に増加して居ります。増えた園は公立六百二十、私立四十一であります。公立幼稚園の發達の著しい様が之を以ても察知することが出來ませう。尤も亞米利加とも最初から公立幼稚園が勢を得てゐたのではなく今より十五年前位には私立二に對して公立一といつたやうな割合であつたのであります。之れが一般社會から保育の必要を認めらるゝと共に、斯く

も著しき發達を遂げるに至つたのであります。

幼稚園と小學校の連絡といふことは亞米利加に於ても相應に問題になつて居ります。幼稚園から小學校へ行く、この移りぎわがうまく行かないと幼稚園のためにも、小學校のためにも、不利益であります。幼稚園を経て來た幼兒は小學校に於ては何うもトラブルサム、ビーブル(厄介な人々)であるといふやうに見られ易いやうであります。何うかしてこの問題を旨く解決したいといふのであちらの識者も相應に苦心して居るやうであります。あちらで唯一の保育雜誌たるキンダーガルトン・レビューなども、この問題の解決のために盡すとあつて、同誌の題號を「キンダーガルトン・アン・ド・ファースト・グレード」といふやうに變へた位であります。小學校の一年の先生の研究會、幼稚園の保姆と小學校の先生との相談會といふやうなものは幾つもあつて、皆この問題を解決せんと努めて居ります。(完)(文責在記者)